

沖縄本島レンタカー利用者アンケート調査結果

約半数が目的地までの道に迷った。

仕事の窓

開発建設部 BUSINESS REPORT 5

1 背景・目的

近年、沖縄を訪れる観光客数は、航空運賃の低減や本土における沖縄ブームの後押しもあり、平成十六年に五百十五万人を記録するほど順調に推移しています。こうした状況の中、レンタカー観光が増加してきています。最近の調査によると、五割以上の観光客がレンタカーを利用しています。

こうしたことから、今後の沖縄の観光振興を考える上で、レンタカー対策は極めて重要です。従来の道路整備では、交通量を計測したり、県民のアンケート等により進めてきました。これに加えて、観光客も重要な道路利用者と考え、レンタカー利用者の視点から、今後の道路整備施策等についての利用者ニーズを把握する目的でアンケート調査を実施しました。

2 調査実施方法

アンケート調査票は、那覇空港周辺のレンタカー営業所の協力を得て実施しました。

- 実施期間 平成十六年七月～平成十七年二月
- 配布枚数 三千票／月（合計二万四千票）
- 回収率 九・二％
- 有効回答数 二千百三十八票（八・九％）

3 主なアンケート結果

目的地までの道に迷ったことの有無としては、約四十五％の回答者が迷ったことがあるとしています（図・1）。レンタカー利用回数が六回以上でも約四十％が道に迷っています（図・2）。

道

に迷った時の状況では、「カーナビの不具合等」が約五十九％と道に迷ったと回答した人の半数以上の回答者が指摘しています（図・3）。具体的には、「情報が古い」「施設を検索できない」「カーナビによる誘導が曖昧」「使い方がよくわからない」等の指摘が多い。

目

目的地の駐車場不足で困ったことの有無としては、約十六％の回答者が困ったことがあるとしています（図・4）。具体的な施設としては、「美ら海水族館」「国際通り」「首里城」が多い。

図3

道に迷った時の状況

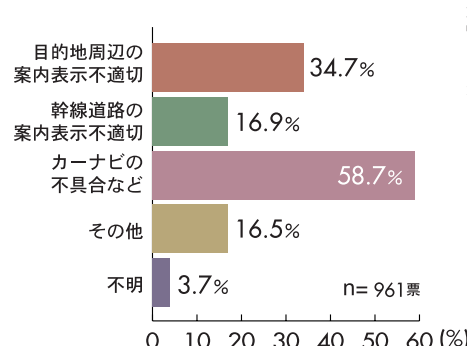
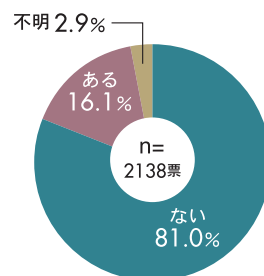


図4

駐車場不足で困ったことの有無



道

路混雑・渋滞で困ったことの有無としては、約四十六％の回答者が困ったことがあるとしています（図・5）。レンタカー利用回数が多くほど困ったことがあるの割合が高くなっています（図・6）。指摘箇所は、国道58号那覇市から北谷町内の区間、国道330号那覇市から浦添市内の区間、国際通りに多く集中しています。また、国道58号については、恩納村内及び名護市内でも一部混雑・渋滞の指摘が多くなっています。

運

転マナーに関しては、「良い」「やや良い」「悪い」「やや悪い」の評価が上回っています（図・7）。路から見える景観についての感想としては、「満足」と「やや満足」とした回答をあわせると約八十一％となっており道路景観に対する評価は高い（図・8）。

道

後重点的に実施すべき施策としては、約半数の回答者が「観光拠点等への案内標識等の充実」及び「渋滞対策」について指摘しています（図・9）。

今

後重点的に実施すべき施策としては、約半数の回答者が「観光拠点等への案内標識等の充実」及び「渋滞対策」について指摘しています（図・9）。

図5

渋滞により困ったことの有無

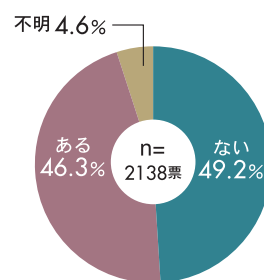


図7

運転マナーについての感想

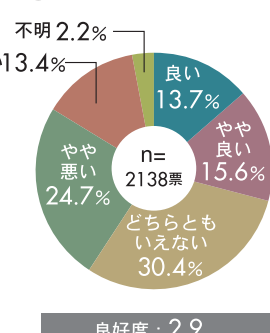


図6 渋滞により困ったことの有無・レンタカー利用回数別

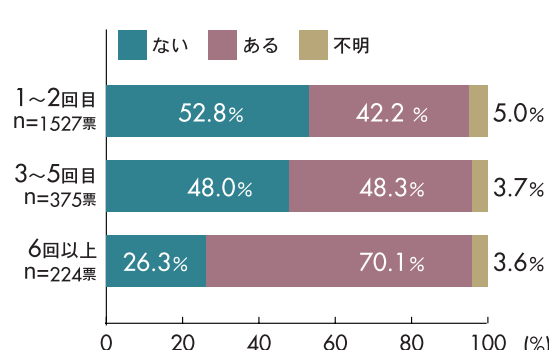


図8 道路から見える景観

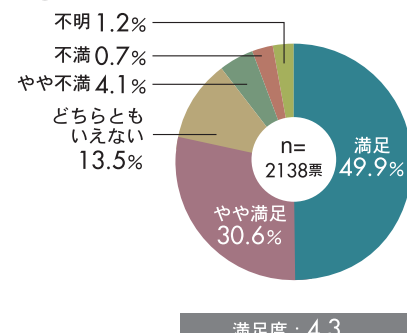
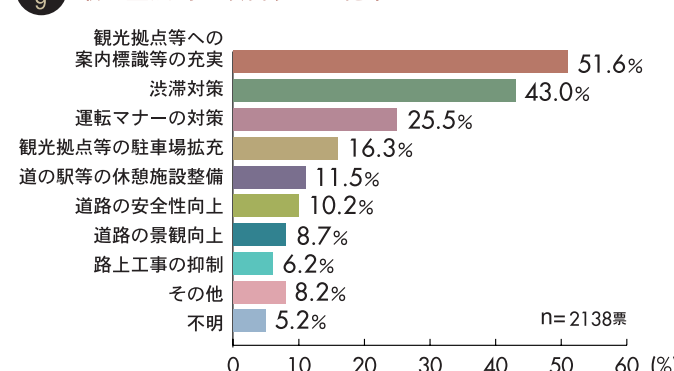


図9

最も重点的に改善すべき施策



4

レンタカー利用者の快適性向上策

アンケート調査結果より、レンタカー利用による沖縄観光の快適性向上の方策として、第一に「道に迷わないようにする」ことがあげられます。そのためには、カーナビの充実、目的地周辺の案内標識の整備、わかり易いマップ等が必要です。また、渋滞対策、運転マナーの向上も重要であります。

ア

アンケート調査では、具体的な内容の記入、地図上での指摘もできるようにしており、混雑で困った地点、危ないと感じた地点、休憩施設が無くて困った地点等を直接記入してもらっています。また、分析においては、月別変動やレンタカー利用回数別のクロス集計も行っています。